	学校運営方針/具体的取組(評価の観点)		アンケー	状況	成果(□)と課題(■)	   対応策
安全	安心な学校を作るため、危機管理意識を高く持った行動をする。		教職員(%)	保護者(%)	八木(□)⊂味趣(■)	
(1)	【教職員】 学校は、スクールバス乗車規定や危機管理マニュアル等の 策定と運用を適切に行い、職員は安全に関する配慮事項 を自分事として行動している。 【保護者】 学校は、交通安全教室や様々な避難訓練や引渡し訓練を 通して、家庭と連携をして緊急時に備えた教育活動をして いる。	Α	72%	79%		•危機管理マニュアルやスクールバスの 安全管理マニュアルは、毎年見直しや
		В	28%	19%		以 <del>当</del> を1〕2。 
(1)		С	0%	1%		
		D	0%	0%		
		E	0%	1%		 
(2)	【教職員】 学校は、各種訓練や教室や廊下等の施設設備の安全管 理等、各々が自分事として危機管理意識をもち行動でき	Α	59%		ている。	・様々な避難訓練を行い、児童生徒が  「自分の身は自分で守れる」ように指導
	るように取り組んでいる。	В	41%			•今後も危機意識をもって施設・設備を
	[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]	C	0%			点検する工夫を行う。   
		D E	0% 0%			
	【教職員】 学校は、健康観察を適切に行い、健康管理や校内の環境 を整備できている。	-	1			<u>-</u> ・最新の情報を収集し、児童生徒への
		Α	76%		早く気付き対応している。	・
		В	22%		し、アンルイーやくんがんの対応、並びに服業に関する子続きの一ための流れを整備した。	フ1友も依々な1川16で1」プ。 
3)	【保護者】	С	2%		□感染症のまん延予防のための対応を適切に行った。   □温湿度計や加湿器、扇風機などを各教室に配備した。	
		D	0%			
		Е	0%			
	【教職員】 学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けた対応を十分	Α	63%	67%		・今後も教職員への研修と児童生徒へ の指導を十分行い、いじめはぜったい
	に行い、一人で抱え込まず教員間の連携•組織的な対応ができている。	В	36%	29%	織的に対応している。 ■いじめ情報共有シートに情報が追加されたことが教職員に分	許さないという風土を醸成する。  •学部会等でいじめ情報共有シートの
4)	【保護者】 学校は、いじめの未然防止や早期発見・対応に対する取組	С	0%	3%	かりにくい。 □年間を通して教育相談を受け付けている。	内容を定期的に確認する。
(5)	として、日々の子ども同士の関わりの見守りや聞き取り、アン ケート調査等を十分に行っている。	D	0%	0%		
		E	2%	1%		
	【教職員】 学校は、児童生徒の人権を尊重し、自己肯定感を高められるよう一人一人の実態に配慮した授業や指導を行ってい	A	56%	66%		・今後も様々な人権について取り上げ  研修や指導を行う。
	る。	В	44%	30%	□小学部の年間指導計画に、人権教育を付け加え指導した。 □中学部では年二回、人権教育の時間を設けている。	
	学校は、児童生徒一人一人を大切にした指導をしている。	С	0%	3%	□高等部では、毎月の生徒指導講話で、適宜人権について指導している。	
		D	0%	0%		
		Е	0%	1%		

## 令和5(2023)年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価と改善策

評価基準 〇十分達成されている ○おおむね達成されている △半分程度達成されている ×努力が必要である 自己評 学校運営方針/具体的取組(評価の観点) アンケート状況 対応策 成果(□)と課題(■) 2 様々な方面における開かれた学校づくりを行う。 教職員(%) 保護者(%) 価 ホームページに臨時に記事を掲載した際は、 【教職員】 学校は、ホームページや一斉メール、紙等を効果的に使 58% 69% 「てお知らせした。 -斉メールで保護者にお知らせしている。 い分け、保護者等や地域に分かりやすく凍やかに情報を □児童生徒の学校での様子や学習内容については、連絡帳や PTA総会や保護者会で、より多くホームペー 伝えている。 ジを見ていただけるようお知らせする。 懇談などで詳しく説明するよう努力している。 様々な授業参観の機会を捉え、保護者や地 42% 26% 域等に本校の教育への理解促進を図る。 【保護者】 学校は、児童生徒の学習の様子や必要な情報を、分かり 2% やすく伝えている。 2% 0% 0% 【教職員】 ↑夏季研修会(外部講師講演会)には多くの参加者があり、好 学校見学会やオープンスクールの目的及び 学校は、外部に向けた研修会や巡回相談等により特別支 59% 評価を得た。 方法を整理し、多くの方に来校していただける 援学校のセンター的役割を果たすとともに、地域貢献活 □学校見学会には多くの希望者があり、特別支援教育への理 機会を設ける。 動や奉仕活動等、生徒が地域に貢献する機会を設けて 解促進につながった。 •地域連携のより良い在り方を今後も検討し、 いる。 . |教育資源を更に活用する。 □幼稚園や小学校、中学校、高等学校への巡回相談を行った。 В 41% □生徒が、公民館清掃や路上のゴミ拾いなどの地域貢献活動 ┃・地域の活動に参加できることはないか、情報 を収集する。 を行っている。 【保護者】 学校は、児童生徒が校外で学習したり、地域の人と関わっ □地域の人と関わりをもちながら、公共施設等を活用した校外 たりする機会を積極的に設けている。 学習を行っている。 0% Ε 0% 3% □保護者や地域の方々には、奉仕作業で学校美化に御協力 ・今後も「地域連携だより」を発行し、地域の公 63% いただいている。 学校は、行事やPTA活動、地域住民との交流や学校公開 63% 共施設や店舗に掲示していただいたり、回覧 等、保護者等や地域住民が来校する機会を設け、学校や □地域の方々には、生徒と一緒に花壇設営を行う活動に協力 ┃板でお知らせしたりする。 児童生徒についての理解促進を図っている。 いただいている。 •ホームページでも地域連携について情報を 29% 38% □学校支援ボランティアには、多くの授業において学習補助を |発信し、広く周知する。 |協力いただいている。 【保護者】  $\bigcirc$ □2名の地域コーディネーターが、学校支援ボランティアをとりま 学校は、保護者等及び地域やボランティアの方々と協力し とめてくださっている。 ながら、ともに児童生徒の学習活動の充実に取り組んで ▽学校支援ボランティア等の関係者にもアンケートをとり、学校 いる。 を評価していただいた。 D 0% 4%

## 令和5(2023)年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価と改善策

評価基準 ◎十分達成されている ○おおむね達成されている △半分程度達成されている ×努力が必要である 自己評 学校運営方針/具体的取組(評価の観点) アンケート状況 対応策 成果(□)と課題(■) 3 学習指導要領を踏まえ、カリキュラムの改善と充実を図る。 教職員(%) 保護者(%) □昨年度の反省を生かし、授業についての評価ができる評価 保護者の更なる理解を促すために各種媒 【教職員】 学校は、児童が主体的に学習する中で、各教科の基礎基 69% 表の作成した。 53% 体や懇談や授業参観等で学習の様子につい 本が習得できるような授業作りを行い、適切に評価し授業 て具体的に説明する。 □主体的な活動を促すための教材や学習環境の工夫など授 改善を行っている。 業の改善が図れた。 ・現在取り組んでいる評価表を活用し、日々 47% 28% □児童が主体的に、かつ生き生きという視点を取り入れること の授業を振り返るようにする。 で、自分から楽しく学習に取り組めるようになった。 【保護者】 (1) 小学部 | 学校は生活習慣の形成や集団での活動、ことば・かず、体 0% づくりなどの基礎基本となる学習をとおして、児童が主体 的に学べる授業づくり行っている。 0% 3% 0% 【教職員】 □清掃や洗濯等についてチェックリストを活用しで行うことで、生 |•成果及び反省を生かしながら実践を重ね、 学校は、生活に必要な衣食住に関する力を育成するため 61% 徒の知識やスキル向上が見られた。 93% 課題別研修等の成果を活用し、指導改善を に効果的な指導及び評価を行い、具体的な取組や生徒 □課題別研修や公開授業を行い、具体的な指導方法や生徒の図る。 の成長を家庭に伝えている。 変容、家庭での実践方法等についての情報共有や検討を行 日常生活において生徒それぞれができるこ い、指導の改善や家庭との連携につなげることができた。 とを増やせるように家庭と話合いながら共に В 7% ■生徒の成長を共有することで、学校の取組について保護者の実践を進めていきたい。 理解が徐々に深まっているが、更に家庭への情報のフィードバッ (1) 【保護者】  $\bigcirc$ 11% クや連携の仕方の工夫などを行う必要がある。 中学部|学校は、生徒の取組や成長を家庭と共有しながら生活に 0% 必要な掃除や洗濯、食に関する力を育成するために体験 的な指導を行っている。 0% D 0% 0% 0% 【教職員】 □「職業」の学習内容や時期を見直し、年間指導計画を改善で ┃ |•「職業」の年間指導計画に基づく授業の実 65% 45% 学校は、職業を中心に、生徒の意欲や自信を育てながら、 践と検証を進める。 将来の社会生活において必要な知識や行動、態度を身に □生徒一人一人が目標等を意識し取り組めるようになってき ・他教科等の年間指導計画に「職業」の学習 付けるための指導・支援をしている。 24% た。 内容を反映させて学習活動の整理、改善を 55% □生徒を肯定的に受け入れ、達成を称賛することにより意欲や 進める。 自信を育むことにつながった。 ・「職業」の取組について、日々の連絡帳や個 【保護者】 ■他教科等において学習している「職業」の内容について、教材 別懇談等で情報を共有しながら指導実践を 学校は、卒業後の社会生活を見据えた課題を確認し、改 11% 等を改善し共有できるようにする。 継続する。 高等部 | 善、向上しようと取り組む力の育成を行っている。 ■学校と家庭で、より効果的な連携を図る工夫に努めながら、 「向上を目指す取組みを進めていく。 0% 0% 0%

(2)	【教職員】 学校は、各教科を合わせた指導と各教科の関連を捉え、 授業を実践し、様々な機会で授業評価に取り組み、PDCA を確実に行いながら授業づくりを行っている。	А	53%	70%	□生活単元学習と各教科の関連を確認したり、授業についての ・各学部で左記と同様の取組を行う。 評価表を活用したりして授業改善につなげることができた。 ・単元ごとに学習内容や手だてなどについて	
		В	47%	27%	□指導計画の振り返り時に、学習内容に対する必要時数を検 その都度振り返りを行い、授業改善につなげ 討することができた。 る。	
	【保護者】 学校は、個別の指導計画や個別懇談等で目標や手立て や児童生徒の成長の様子を分かりやすく説明している。	С	0%	1%		
		D	0%	1%		
		Е	0%	0%		
	【教職員】 学校は、児童生徒が興味・関心をもって主体的に学習に 取り組めるよう児童生徒同士や教師との対話や体験的な 学習の場面を多く取り入れて学びが深まるような授業をし ている。	А	55%	67%	□授業研究会で付箋を活用ことにより、時間をかけずに率直で •—人1回は他学部の授業を見られるよう、公忌憚のない助言が集まった。 開授業の日時を計画する。授業時間内で参加が難しい教具はVTDでの授業研究会に会	
(0)		В	45%	27%	観が難しい教員はVTRでの授業研究会に参加するよう促す。	
(3)	【保護者】 学校は、友達や教師とのやり取りの場面や体験的な学習 を取り入れ、学びが深まるような授業を行っている。	С	0%	3%		0
		D	0%	0%		
		Е	0%	2%		
(4)	【教職員】 学校は、発達段階や障害の状態等に応じ、ICT機器を活用 した分かりやすい授業を行っている。	Α	57%	57%	□夏休みのタブレット持ち帰りでは、学部の実態に合った課題を  ・学習効果が高かった取組や生徒の主体的   実施することで、学校内での取組の周知にもつながった。   な活動が見られた取組等を情報部と連携し	
		В	43%	32%	教員に周知できるよう計画する。保護者に向   けては今後もホームページを活用する。	
	【保護者】 学校はタブレットなどのICT機器を活用し、写真や動画、学 習アプリ等を使って、分かりやすい授業や取り組みを行っている。	С	0%	5%		0
		D	0%	0%		
		Ε	0%	6%		

## <学校関係者評価>

- ・一部C評価やE評価はあるが、A評価、B評価の割合が高く、全体的に素晴らしい評価を受けていると思う。
- ■・学校評価は評価することが目的ではなく、課題から改善策を見つけるのが本来的な目的である。評価に満足せずに課題を見つけ、改善していくことが大切である。
- 指導を行っていく上で、職員間の引継ぎが重要である。個々で行っている良い取組を次に繋げることが大切である。
- ・学校の大切なポイント「楽しく」、「自分から」があるが、各学部文言は違っているが、これが評価の中に入っている。これが大切である。
- 事評価を見ると教職員よりも保護者の方がA評価をしていることが多いのは、保護者が先生方を評価してくれているからだと思う。
- ・アンケートの回収率が良いことが素晴らしい。また、教職員、保護者以外の学校関係者(外部の方)にアンケートを実施し、評価をしてもらっているのも外から学校がどのように見られているか分かってよいと思う。
- ・開かれた学校づくりの一環として一斉メールやHP等で活用しているかと思うが、保護者の中にも個人差があり、情報機器に不慣れな人もいるかと思う。内容によっては、紙媒体だと受け取った感じが残ってよいこともある。
- ・E評価(分からない)について、保護者への見える化により改善されるのではないか

## <評価結果に基づく今後の改善方策等>

- Ⅰ 安全安心な学校を作るため、危機管理意識を高く持った行動をする。
- 各種訓練を定期的に行い、個々が危機に対応できるようにしていくとともに、学校で行っている取組について保護者には丁寧に説明をする。
- ・児童生徒の健康管理を徹底するとともに最適な学習環境が提供できるようにする。
- ・個々の実態に応じた対応を実施するとともに、いじめ情報共有シート等を活用しながら指導を実践する。
- 2 様々な方面における開かれた学校づくりを行う。
- ・保護者会やPTA総会等の機会に各種媒体(一斉メール、HP、紙等)の使用用途や目的等について説明をする。
- ・センター的役割を果たすとともに、地域の人材を教育活動に活用する方法を検討したり、児童生徒が地域の一員として活動できる機会を設定したりする。また、その様子を様々な機会で発信する。
- 3 学習指導要領を踏まえ、カリキュラムの改善と充実を図る。
- ・引き続き家庭と連携していきながら今年度の成果及び反省を生かして指導を継続する。
- 授業改善をするため単元ごとに学習内容や手だてなどについてその都度振り返りを行う。また、全職員が公開授業に参加できるような計画について検討する。
- ・個の実態に応じてICT機器を活用し、学習効果が高かった取組や生徒の主体的な活動が見られた取組等が校内で共有できるようにする。